



歓迎をうける絵美ちゃん

## 日本に来て最高!

アメリカに住んでいる酒井絵美ちゃん(8歳)は、新学期前の休みを利用しておばあちゃんがいる横芝町北清水で日本の生活を送っています。そして、日本の子どもとの生活体験をしようと、上堺小学校で勉強しています。

心のこもった歓迎会を行いました。クラスのお友達、英語を教えてもらったり、アメリカの話しを聞いたり交流の輪が広がっています。

絵美ちゃんは、七夕集会に向けての「まこも馬づくり」や七夕飾り、学校で友達と一緒に作るプール、近所のおじいちゃんやおばあちゃんなど、見るもの聞くものすべてが初めて。なかでも、花火をしたことは、「日本に来て最高」と感激したようです。

クラス担任の斉藤多恵子先生は、「言葉が通じなくても子どもたちは身ぶり手ぶりでお互いになんとか理解しあっています。子どもたちは慣れるのも早いですね。」と、また絵美ちゃんのおばあちゃんには、「絵美は、初めて学校へ行くとき泣きべそをかいていたんですよ。それが次の日からは、早起きをして学校へ行くのを楽しみにしているんです。今は、『日本に、もっといたい。』と言っています。地域のみなさんのあたたかい人柄に感謝しています。」と話してくれました。

ひろろば  
珍しい話題などお寄せください

### 公民館クラブ紹介 ④

## 家庭づくりの生かす

### 生け花クラブ

床の間や玄関先に生けられたお花を見ると、その家庭の暖かさや住む人々の心が伝わってきます。

このクラブは、そうした家庭づくりの主役となるお母さんたちが中心となって結成したのですが、もう20年近くの歴史を刻んできました。

指導者は岩沢涼風さん(光町)。言葉づかいから指導にあたる仕事まで、礼節の正しい物静かな先生です。

しかし、生け花に対する考え方は独創的で、在来の様式には余りとらわれず、個性や感性を引き出すことに重点を置いた生け方ですので、練習の時間も決して堅苦しい雰囲気ではありません。

教材も季節やその時々行事にあわせて吟味してくれませんが、余り負担にならないようにと気を配っているそうです。



なごやかな雰囲気の中で

「花を生ける技術を教えるだけでなく、たとえば『お正月の松を生けるとときには、年神様が各ご家庭の松を頼りに天から下りて来られるので、それを迎えるために松を生けるのです。』……といったように、それぞれの花材にかかわるお話しを挿入しながら指導していただきます。そうし

た先生の理解しやすい指導方法や人柄にひかれて、活動が途絶えることなく、今日まで引き継がれてきたのだと思います。」これは前クラブ長の守屋ときさんの弁ですが、初心者にはテキストをもとに基本からしっかりと教え込んでくれますので、中途加入の不安も全くないとのこと。クラブ長の伊藤孝子さん(東町)は、「商売をしていますので決して暇な立場ではありませんが、この日だけは許しを得て参加するようにしています。花を生けることで心が安まり、美的感覚が深まります。その上家庭のムードづくりや子どもたちの情操教育に大変役立ちます。ですから、みなさんにぜひ参加していただきたいと思っています。やってみれば決して難しいものではないのですから」と、話してくださいました。

■活動日 毎週第2  
・第4火曜日 午後  
1時30分から